



# Office 365 と一緒に Dropbox Business を使う 5 つの理由

テクノロジーの進化とともに、ビジネスのやり方も根本から変化しています。そのため、競争力を維持するためにチームに必要なのは、重要なビジネス ファイルを保存するためのスピーディで信頼性の高いツールです。

Microsoft Office 365 を使用している優秀なチームは、最高のファイル同期・共有ソリューションが欠かせないことを知っています。だからこそ、ビジネス シーンでは OneDrive よりも Dropbox Business が選ばれているのです。

## 1. 堅固なクライアントテクノロジー

- OneDrive ではローカルのオフライン容量の上限がファイル 2 万件、アップロード サイズは 10 GB までとなっています。それに対し、Dropbox ではデスクトップクライアントにファイル 30 万件以上を保存でき、あらゆるサイズのファイルを同期できます。
- 差分同期、LAN 同期、ストリーミング同期により、Dropbox は OneDrive に比べるとファイル同期が 20 倍も高速です。\*

## 2. 外部との共有がかんたん

- OneDrive for Business では写真、動画、複数のファイルを含むフォルダのプレビュー機能がありません。それに対し、Dropbox ではほぼすべてのファイル形式で高解像度のプレビューが利用できます。
- OneDrive for Business では個人用のファイルは OneDrive に保管し、共同作業用のファイルは SharePoint に保管する必要があり、共有ファイルと個人用ファイルの扱い方に違いがあります。ところが Dropbox ではコンテンツ用のプラットフォームは 1 つだけで、ワークフローを統一し、チームが頻繁に使用するアプリケーションと統合することが可能です。

## 3. きめ細やかな管理機能

- OneDrive for Business の監査ログは SharePoint との追加統合が必要で、管理者が共有やアップロード状況を監視することはできません。
- OneDrive for Business にはアカウント移行ツールが含まれておらず、管理者はユーザーのデバイスを遠隔削除できないため、社員が退職する際に IP を紛失する恐れがあります。

## 4. パワフルな API

- OneDrive API は OneDrive と OneDrive for Business とでは機能的に同じものが提供されておらず、OneDrive for Business の機能に関しては重要な機能が欠けています。
- OneDrive for Business 向けの API を使用する際、共有リンクの作成やテキストのコピーができません。また、差分変更に対応していないため、同期に時間がかかり効率性アップにはつながりません。

## 5. 安全な共有リンク

- OneDrive for Business には、パスワード保護や共有リンクの有効期限の自動設定機能がないため、重要なビジネスデータが漏洩してしまう恐れがあります。それに対し、Dropbox Business ではユーザーが共有リンク作成時にさまざまな権限を設定できるので、社員が率先してデータ漏洩を防止することができます。

\* Dropbox、Google ドライブ、Box、Microsoft OneDrive を対象にしたサードパーティ調査による予備データ。容量 25 MB ファイル内のデータ 1 KB を変更した場合。